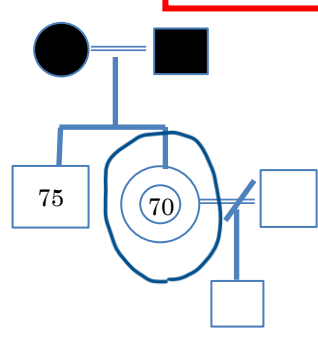


# 提出事例フェイスシート

出典：茨城県介護支援専門員協会版一部改変

受講者氏名	○山 △美				所属機関の種別	
					居宅介護支援	
領域(テーマ)名	記入不要				ジェノグラム	
事例タイトル	支援者が適切と思う支援ができていない独居の支援				手書き可	
提出理由	本人の意向で適切なサービス利用ができず、どのように支援していけばよいか悩んでいるため。					
年齢	70	性別	女性			
要介護認定区分	要介護2	認定年月日	R5.0月◎日			
身体障害者手帳	有・無	等級	2級	取得年	×年	
療育手帳	有・無	程度		取得年		
精神障害者保健福祉手帳	有・無	等級		取得年		
障害高齢者日常生活自立度	A2	認知症高齢者日常生活自立度	自立			
経済状況	生活保護受給					

健康状態 (既往歴・現病歴)	受診・服薬・医療処置等	健康に対する本人・家族の意識
<p>既往歴 20××年 脊柱管狭窄症術後・坐骨神経痛</p> <p>現病歴 20××年 脊柱管狭窄症後遺症による不全麻痺 19××年 高血圧 20××年 メニエール病 20××年 白内障</p>	<p>受診 H病院 内科・眼科・耳鼻科 介護タクシーにて3MIに1度通院</p> <p>服薬 アムロピジン 5mg 1錠 朝食後 メコバラミン錠 500「トーフ」3錠 1日3回 毎食後 ヘスヒスチンメル酸塩 6mg 1錠 1日3回 ヒアルロン酸Na点眼液 0.1% 1日4回 両目</p>	<p>本人 脊柱管狭窄症の手術の後遺症でマヒが残り仕事ができなくなった。足の痛みがあるが整形外科には不信感がありかかりたくない。 通院は大変だけど通っている病院は信頼できるので通い続けたい。 家族(兄) 自分も高齢で遠方なので受診は付き添えない。足が悪くなっているので受診はしてほしいと思うが本人に任せている。</p>

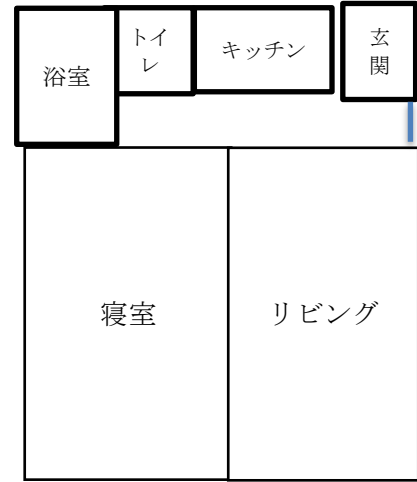
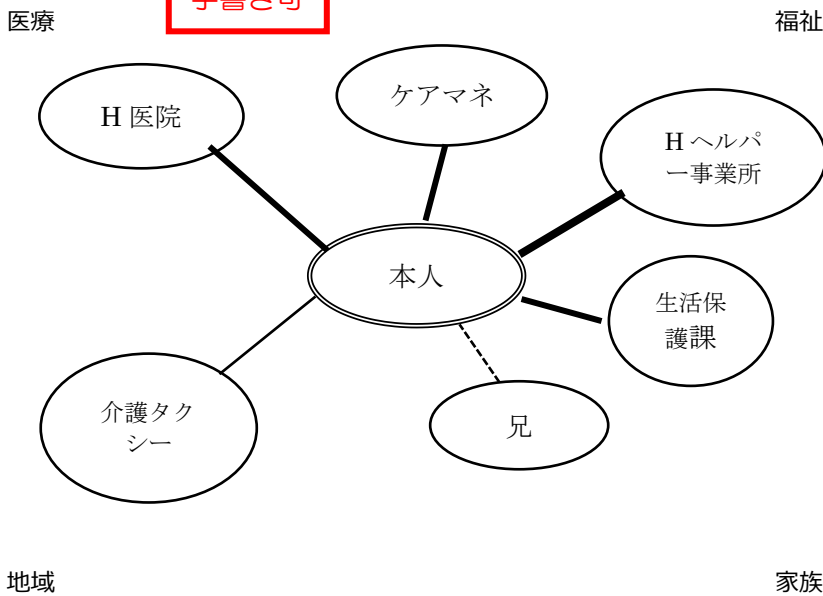
生活歴 (年齢と和暦)
<p>(例) S〇年 隣市で出生</p> <p>S 2 9 都内で出生</p> <p>S 1 8 7 歳 高校卒業 専門学校入学</p> <p>S 2 5 1 歳 事務員として働く</p> <p>S 2 5 5 6 歳 結婚</p> <p>S 2 5 7 8 歳 息子出産</p> <p>H 4 7 0 年 離婚 実家へ</p> <p>H 5 7 1 0 1 7 歳 脊柱管狭窄症手術後遺症残る</p> <p>H 6 2 0 7 歳 母死去 生活保護受給 障害サービス開始</p> <p>R 6 5 1 歳 アパートへ 生活保護受給 介護保険サービスへ移行</p> <p>R 7 0 6 歳 現在</p>

本人の意向・望む生活像 (課題分析を通して可能な限り具体的に)	家族の意向・望む生活像 (課題分析を通して可能な限り具体的に)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り施設に入らず、自分のペースで生活したい。</li> <li>・自分の子供とは疎遠。兄も高齢で遠方なので迷惑をかけたくない</li> <li>・自分のペースを乱されたくない。</li> </ul>	<p>兄:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔から自分の意向を曲げず、人の言うことを聞かないので本人の意向で支援してもらえればよいと思う。</li> <li>・転んだり体調が悪化したりして入院などしないでほしい。</li> <li>・自分も同居や介護は難しいのでできれば環境の整った施設で安全に暮らしてほしい。</li> </ul>

個人因子	環境因子
<p>70歳女性。</p> <p>25歳で結婚。子供を出産するが40歳の時に離婚。親権は夫が持ち、子供とは疎遠。</p> <p>離婚後両親と住む。事務員をしていたが50歳の時に脊柱管狭窄症の術後の後遺症で仕事ができなくなる。親の死去後生活保護受給。</p> <p>自身の生活ペースやスタイルを大切にする。感情の起伏が激しい。</p>	<p>アパートの1階に居住。自宅内段差多し。</p> <p>坂が多く、駅まで徒歩で15分だが歩行困難にて通院や外出は介護タクシー利用</p> <p>買い物はヘルパーに頼んでいる</p> <p>訪問介護週2回 自宅内に置き型手すり設置。</p> <p>市の介護タクシー券交付 生活保護受給</p>

手書き可

手書き可



<p><b>心身機能・身体構造の状況</b> (睡眠、栄養・水分、視聴覚、痛み、口腔、排尿・排便、筋力、全身持久力、精神面など)</p>	<p><b>活動の状況</b> (立ち座り、浴槽のまたぎなどの起居動作、移動、運搬動作、洗髪・洗身、爪切り・耳掃除、着替え、買物、金銭管理、掃除など)</p>	<p><b>参加の状況</b> (家族の中での存在・本人の役割・友人、近隣との交流・集団活動への参加・交友関係など)</p>
<p>プラス面</p>	<p>プラス面</p>	<p>プラス面</p>
<p>排尿・排便行為は自身で行えている 食事はおにぎりを自身で握って冷凍し、生協の総菜や冷凍おかずとともに温め食べている 夜は2回ほどトイレに起きるが、比較的眠れている 視聴覚は支障ない</p>	<p>自宅内の移動は這って行っている 着替えは自身でゆっくり行っている 起居動作は手すりがなくともゆっくり行っている 入浴は週3回 シャワー浴であるが自身で行えている 生協で頼むことはできる</p>	<p>ヘルパーとは良好な関係を築いている 時間をかけ自宅での家事を行っている 礼儀正しい几帳面な性格</p>
<p>差し障り・低下のある点</p>	<p>活動制限</p>	<p>参加制約</p>
<p>右の股関節や両ひざの痛みが悪化している。 両下肢の筋力が低下しており歩行が難しくなっている 気持ちの浮き沈みが激しく、特に自分のペースが乱されたり思い通りにいかないと怒りだしたりひどく落ち込んだりする</p>	<p>立ちあがりやひざを伸ばして行えない。 座位が左に傾いてしまい姿勢が不安定 浴槽への跨ぎは困難 買い物はできない 爪切りは自分でできない</p>	<p>一人暮らし 近隣に知人や友人はいない 兄は県外に居住ですぐに駆け付けられない 集団生活は苦手 子供とは疎遠</p>

<p>事例に対してあなたが介護支援専門員として捉えている課題</p>	<p>事業所レベルであなたが介護支援専門員として抱えている課題</p>
<p>本人の困りごとの原因である整形疾患へのアプローチができていない 入浴支援や機能訓練などのサービスの導入を提案するが本人が希望せず、適切な支援が行えない。 介護者がおらず、緊急時の対応についてどのようにしたらよいか</p>	<p>意思決定支援 本人の望む暮らしの実現のためのアプローチ方法 身寄りのない方の緊急時の対応</p>

※ジェノグラム、生活歴、エコマップ、間取りについては、手書きでも可。また、別な用紙に記載すること可。